

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27年 9月 30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690101011
法人名	医療法人 厚仁会
事業所名	グループホーム あすなろ
所在地	鹿児島市高麗町21番29号 (電話) 099-251-8686
自己評価作成日	平成27年6月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年7月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1階に診療所を併設しており医療面での対応が充実しています。立地環境も市街地にあり利便性が高く、また長年診療所として地域との交流もあり公園や学校も隣接しており季節を感じながら生活できます。入居者様が今まで生活して来られた状況を大切に考え、ご自分で出来る事はしていただき出来ない所をお手伝いしながら、ご自分の望む生活を継続できるよう自立支援を行っています。またご自分のお好きな事や今までやって来られた趣味を続けながら、楽しみや生きがいに繋がるよう支援しています。関連施設と合同で夏祭りや餅つきなど年間を通して楽しんで頂いています。年2回の家族交流会では入居者様を中心に、ご家族、スタッフが時間をかけて語り合える時間を持ち、入居者様の思いは勿論、ご家族の思いもスタッフ全員で共有できるように努めています。また職員の質の向上にも力を入れており、毎月議題を決めて職員研修を行い介護の実践に役立ており、介護福祉士や介護支援専門員等の資格修得にも施設をあげて協力体制をとっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○ホームは利便性の高い市街地のビルの2、3階に2年前に開設され、1階は法人母体の協力医療機関になっているため、利用者の健康管理に対しては日常的に連携が図られている。また急変時対応の体制も十分で利用者及び家族の安心に繋がっている。

○管理者及び職員は、理念に沿って利用者の人格や誇りを大切にしながら思いや意向の把握に努め、利用者が地域の中で安らかに、その人らしく生きがいを感じながら生活できるように、常に敬愛の気持ちで寄り添い、日々ケアに努めている。

○管理者は、職員及び家族との協力体制及び信頼関係の確立が何よりサービス向上に繋がると認識して、日頃から要望や意見等の把握に努め、課題の大小に関わらず誠意をもって改善に努めており、自由に意見や要望等を気軽に述べたり協議できる体制が構築されている。また、職員のスキルアップにも熱心に取り組んでおり、ホーム内の研修を計画的に実施すると共に、外部主催の研修にも職員の業務や勤務時間を工夫して受講しやすい体制づくりに配慮している。職員の資格取得や技術修得にも積極的にバックアップしており、信頼と協力体制を構築することで、働きやすい職場環境づくりに努めている。

○利用者の重度化や終末期への対応については、階下の協力医療機関や訪問看護事業所と密に連携を図って、本人や家族の希望に添ったケアに取り組んでおり、終末期対応の研修を実施して職員のスキルの向上と不安の解消を図っている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	いつでも目につきやすい場所に掲示してあり、常に眼にして確認しながら介護を行っている。また週に1度カンファレンスで唱和して共有して実践に繋げている。	法人全体の理念に加え、開設時に全員で作成したホーム独自の理念に沿って、利用者の尊厳を大切に一人一人の状況に合わせた思いやりのある、きめ細かな支援に日々取り組んでいる。理念は、いつでも見られるようにホールに掲示すると共に、毎週開催のカンファレンスや朝夕の申し送り時に、研修やケアの振り返りを実施して、理念の理解とその実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	長年、診療所として地域医療を担っており、地区の民生委員や町内会長とも相談できる間柄である。荒田地区の文化祭への出品やサマーボランティア等の受け入れなど地域との交流を図っている。	法人母体の医療機関が同地区で長年地域医療に取り組んできたこともあり、交流の体制はほぼ築かれている。小学校の文化祭に作品を出品したり、祇園祭やおはら祭りに法人の事業所合同で踊り連を編成して参加している。日常的に近隣の公園やコンビニに出かけて地域の方との挨拶や会話を楽しんでいる。今後、更に地域に密着した施設づくりを目指して、事業所主催の夏祭りや餅つき大会、クリスマス会等の行事に地域の人々にも気軽に参加してもらうための広報活動や介護や福祉の相談に応じる等の取り組み検討している。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	認知症についての相談やグループホームへの入所相談は出来るだけわかりやすく丁寧に応じるように心がけている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回、家族や民生委員、長寿あんしん相談センターの職員の方々に参加していただき、年間行事報告や感染対策、災害時の対応などに、ご意見を伺い、改善や質の向上に役立っている。また、家族交流会や消防訓練時に会議を行い、出席者が偏らないように配慮している。	会議は家族や民生委員、行政、職員の参加を得て定期的に開催されている。利用者の現況や行事・問題点への取り組み状況、外部評価の結果等の報告がなされると共に、委員からは地域の情報や防災に関する意見、介護に関する質問等が出され活発な意見交換の場になっている。また、年2回開催される家族会や防災訓練にあわせて会を開催し、多くの人に参加してもらって意見交換する等、有意義な会議になっている。会議の内容は議事録で共有を図り、日々のサービス向上に活かされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険の更新時や事故報告など担当窓口を訪問して情報交換を行っている。	包括支援センター職員には運営推進会議に出席して頂いている。また職員は、市担当窓口や包括支援センターと、訪問や電話で運営や利用者のケアについて相談や協議を密に行い、情報や助言を頂くなどの連携を図ってサービス向上に取り組むなど、協力関係が築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員研修で身体拘束について学習し、身体拘束の弊害や禁止となる具体的な行為を職員全員で共有し合い、常に自分自身のケアを振り返り、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束の排除については、「身体拘束廃止推進について」を整備し、虐待防止や権利擁護等に関する研修を計画的に実施して認識を深めている。また、言葉による拘束も含めて日常的にケアの振り返りや話し合いを行い、安全を確保しながら自由な暮らしの支援に取り組んでいる。居室や玄関の施錠は行わず、職員は常に利用者の行動や思いの把握に努め、寄り添うケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で高齢者虐待防止法等について学習し、虐待の具体的な内容や発見時の対応など職員全員で共有し合い、虐待防止への意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	機会があるあるごとに日常生活自立支援制度や成年後見人について説明している。利用される方がいれば管理者を中心に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時や解約時、改定時は随時、内容を声に出しながら説明を行い、理解されたかを確認している。また、その都度疑問点がないかを尋ね、納得しているか確認し同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族交流会や運営推進会議等で要望を問いかけたり、ご家族や友人が面会に来られた際は声かけしたり、話しやすい雰囲気を作っている。介護相談員を受け入れ、利用者が外部者へ意見や要望を伝える機会を設けている。また、出された意見や要望はケアカンファレンスで話し合い改善している。	利用者の思いや意見は日常の会話や表情等で、また家族の意見や要望等は運営推進会議や来訪時の対話、家族会を通じて把握に努めている。職員は運営推進会議事録や家族会の記録等で内容を共有し、カンファレンスや申し送りで対応を話し合っケアに反映させており、結果は家族にも報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	施設長、管理者と職員は週一回のミーティングを行い意見交換を行っている。出された意見や提案は前向きに検討し、よりよい施設になるように取り組んでいる。	管理者は日頃から、話しやすい雰囲気作りに努めて、申し送りやカンファレンス、日頃のケアの中で意見や提案を聞き取り、また内容によっては随時個人面接を実施して把握している。ケアや業務の改善に向けた意見や提案は、職員で話し合っサービスの向上に反映させるなど、協力と信頼関係が構築された働きやすい環境づくりに努めている。職員の資格取得やスキルアップに対しても積極的にバックアップして意欲の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	施設長はミーティングや時間を作っは施設に来られ職員の労をねぎらっ下さったりしている。また資格修得にも理解があり、各自の向上心を大切にして援助している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員研修を行い、介護の質を高めるように努めている。外部の研修にも参加する機会を作り、参加したスタッフが中心になり次の研修へつなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連グループの管理者と事例検討を行うなどして質の向上に役立てている。また、職員間の交流を図り、介護の質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集を行いながら利用者の希望や困りごと、不安を聞き取り要望に応え安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望や困りごと不安などを聴き、疑問点には丁寧に応え信頼関係を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、早急な対応が必要かどうか、利用者やご家族の思いや状況を確認し、その方にとって必要なサービスを柔軟に検討し、必要があれば他のサービス等の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者は共に生活する者同士であり、人生の先輩であることを理解しており、利用者の出来ること出来ないことを見極め、お互いが支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には面会の機会を作っていただき、家族にしかできない情緒面でのケアをお願いしており、利用者が安心して生活できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚が自由に面会でき、馴染みの美容室や墓参り等、これまでの関係が途切れることなく継続できるように支援している。	利用開始前に本人や家族、関係機関から、生活歴、病歴、家庭環境、地域との交流状況、趣味、嗜好等の聞き取りを行い、アセスメントシートで情報を共有している。本人の希望に沿って行事への参加や買い物、墓参、美容室、一時帰宅等、馴染みの人や場との関係が途切れないように家族と連携して支援しており、その状況は「ケース記録」に詳細に記録している。遠方に居住している家族とは電話の取り次ぎや手紙代筆等の支援をして関係性の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を把握し、利用者同士が交流する中で良好な関係を築けるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談に応じる事を伝えており、入院先へ状態を見に行ったり電話をもらったりして、相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示できる方は本人や家族から直接、思いや希望する暮らし方をお聴きしている。困難な方は、日々のかかわりの中で本人の意向を職員間で見極めながら把握に努めている。	利用開始時の聞き取りや日頃の利用者及び家族との関わりの中で、思いや希望をくみ取るように努め、個人台帳やケース記録で内容を共有している。対応については、申し送りやカンファレンスで十分話し合い、家族とも相談しながら、利用者の気持ちを大切にした本人本位のより良い支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者や家族や関係者から情報を得るようにしている入居後も折にふれご本人から今までの生活状況やサービスの利用等を聴き把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人の生活のリズムや心身状態の把握に努め、現状に沿った生活が出来るように支援している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議で利用者、家族、職員、主治医と利用者がよりよく暮らすための介護方針を話し合い、介護計画が現状に合ったものであるかを期間を決めて検討している。	介護計画は、利用者、家族の意向や希望及び医師の意見や関係者からの情報を基に、職員全員で意見交換して、利用者本位のきめ細かな介護計画を作成している。計画は利用者の課題や改善目標等を明確にし、ケアの方法等も詳しく記載されており、ケアの実施は日々確認しながら的確に支援している。入院など利用者の状況変化に対しても、実態に即した介護計画の見直しや修正が適切に行われている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が日々の気づきを業務日誌、ケース記録、申し送りノート等に記載した内容を週一回のケアカンファレンスを通して職員間で情報の共有を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の付き添いや買い物など利用者や家族の希望や状況に臨機応変に対応し、利用者や家族の満足が得られるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して生活できるように地域の民生委員や警察、消防署に協力をお願いしている。サマーボランティア等を受け入れ利用者が地域との交流を楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医や診察内容の希望を伺い、利用者や家族の意向に沿うように努めている。また初診時は施設から職員が同行して適切な治療が受けられるように主治医に情報提供を行っており再診時も適切な情報提供を行っている。	利用前の病歴や受診状況は十分把握されており、本人・家族が希望する医療機関で受診できるように支援しているが、利用者の殆んどが協力医療機関で受療している。他科の医療機関への通院は職員及び家族が連携して同行しており、体調の変化や受診の結果は、家族にも電話等で細かに伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	血圧や体温等、異常に気づいた時は併設の診療所にすぐに連絡できる体制になっている。また訪問看護ステーションとも連携を取っており24時間体制で、相談や看護を受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、介護サマリーや薬剤情報を提供して医療がスムーズに行われるように努めている。また、担当医の説明には家族の同意を得て同席し、退院支援にも早い段階からかかわるように配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に係る対応の指針を定め、入居時に家族に説明し同意を得ている。また、状況に応じて家族や主治医と話し合う機会を持ち、施設での終末期を希望される場合は、施設で出来る事を説明し、訪問診療、訪問看護師、職員で共に協力しながら支援できるように取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、利用開始時に利用者や家族に「重要事項説明書」や「重度化した場合における対応に係る指針」によりホームの方針を説明して同意を得ている。これまで看取りを1件実施しており、終了後には職員全員で振り返りと今後の取り組みに向けた意見交換を実施している。今後も重度化した時点で再度家族に対応の希望を十分確認し、可能な限り希望に沿った支援ができるよう主治医や訪問看護と連携した体制を構築することにしており、終末期のケアに伴う職員の不安の除去やスキルアップの研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や応急処置のマニュアル作成や研修を行っている。研修には看護師も同席し、より実践的な対応が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、地震、風水害のマニュアルを作成し、年2回消防訓練を実施し災害時の避難体制を職員間で話し合っている。また、訓練に地域の町内会長や民生委員に参加してもらい、地域の協力をもらえるように取り組んでいる。	消防署と連携し、民生委員や町内会長にも参加してもらって、年2回火災を想定した夜間を含めた避難・通報・消火訓練を実施している。訓練後は消防署職員による災害に関する講話や消火器等の取扱いの研修を実施している。災害対応マニュアルを整備しており、特に夜間の火災を想定した避難については、日常的に話し合っている。スプリンクラー等各種の設備の設置や災害時の食料や飲料水の備蓄、卓上コンロ、ラジオ等の準備もされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時や排泄時など何気ない誘導を心がけプライバシーの確保や個人の人格を尊重するように配慮している。入居者は共に生活する家族であり人生の先輩であることを忘れず、常に尊敬の気持ちを持ち、プライドを傷つけないような声かけを行っている。	人生の先輩である利用者の人格を尊重し、尊厳やプライドを損ねるような言葉かけや対応を行うことの無いように、常に敬愛の気持ちでケアに取り組んでおり、研修やケアの振り返り等で認識を深めている。またボランティアの学生に対しての指導も適切に行われており、個人台帳の保管や居室の保護も細かに配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望に理解を示し、何事も利用者の気持ちを最優先し、利用者が自分で決めて納得のいく生活が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間はある程度決められているが、それ以外は入居者のペースで生活していただいている。また、行事参加やレクリエーション等は利用者の意向を尊重しながら行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日、服やアクセサリなど自分で選んで身に着けてもらっている。定期的に訪問美容室や馴染みの美容室を利用して、好きな髪形を楽しんでいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好を把握し、旬の素材を使い行事食などメニューにも工夫を凝らしている。献立を一緒に決めたり、下ごしらえや後片付けを手伝ってもらっている。職員も同じテーブルを囲み食事を一緒に楽しむようにしている。また、家族との外食も楽しんでいる。	利用者の嗜好、食事形態、疾病や服用中の薬の影響等を十分に把握して、栄養バランスに配慮した調理に努めている。季節感のある食材や家族との会食、おせちや誕生会等の行事食、弁当持参のお花見、餅つき、手作りのおやつ等、食の楽しみを工夫している。職員も一緒に談笑しながら食事し、食材の下ごしらえや下膳等は利用者も楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事量や水分摂取量は利用者ごとに 記録し、定期的な体重測定や毎日の 排泄状態を見ながら健康状態を把握 している。水分摂取が困難な場合に はゼリーにするなど工夫して対応し ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声かけを行い職員 が傍で見守り、綺麗になったかを一 人ひとり確認している。一人で出来 ない方は職員が義歯と口の中を綺麗 に磨いている。義歯は職員が預かり 毎日洗浄している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	排泄チェック表等で利用者の排 泄パターンや習慣を把握し、ト イレ誘導や声かけでトイレでの 排泄が出来るように支援してい る。	利用者個々の習慣や身体機能に応じた排泄の 支援になるように排泄チェック表も活用し て、不安や羞恥心に十分配慮した声掛けに努 めながら可能な限りトイレで排泄できるよう に支援している。利用者の身体的変動に対し ては、適切なケアになるように話し合いや介 護用品の工夫を繰り返し、ケアプランにも反 映させて改善に取り組んでおり、実施の状況 は詳細に記録されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	排便や水分摂取量のチェックを 行い定期的な排泄があるように 努めている。また、日頃から繊 維質の多い食材や乳製品など多 く摂るように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴の曜日は決めてあるが、利用者の希望で臨機応変に対応している。入浴方法も見守りだけの方や全介助や部分介助が必要な方など入居者の状態に応じた支援をしている。また、重度化への対応として特殊浴も備えている。	入浴は基本的には週3回であるが、失禁等には随時シャワー浴や清拭を行うなど衛生面にも留意して柔軟に支援しており、好みの温度や時間など可能な限り希望に添った入浴を楽しんで頂いている。入浴を拒否される場合には無理強いしないで、声かけや時間、職員の変更を行うなど工夫して、気持ち良く入浴されるように支援している。個浴での対応でボディチェックや皮膚疾患の手当をしながら、職員と親しく会話を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣に合わせて、ご自分のペースで横になっていたいて。昼間は出来るだけ活動してもらい、夜は良眠していただくように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルで薬の内容や用量、用法を確認できるようにしている。薬の処方の変更は申し送りノートに記録し職員が情報を共有するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意な事、好きな事を本人や家族から情報収集しており、手伝い等、施設での役割を持ってもらっている。また、趣味やお好きな事をレクレーションで取り上げ一人ひとりの生活に楽しみが持てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に応じて散歩や買い物等、出かけている。また、ご家族との外出やお墓参り、馴染みの美容室や自宅への外出などの機会が持てるように支援している。	利用者の希望に添った外出になるよう健康状態や天候等を考慮しながら支援している。日常的に近隣の散歩やコンビニでの買い物に出かけている。またドライブや弁当持参の季節の花見、地域の行事、墓参り、美容院など家族と協力して外出に努めている。利用者の身体機能に沿って、車椅子やリフト車を適切に活用し、外出が楽しみになるように工夫しながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望により本人でお金を管理していただき、買物が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を持っている利用者は自由に電話が出来る状態である。また本人が希望すれば、施設から電話を取り次いだりしている。手紙も書かれた時は投函するなどの支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設全体を清潔に保ち、カーテン等も落ち着いた色を選び、過ごしやすい空間を作れるように配慮している。また、室内に季節の飾り物を置き季節感を感じてもらえるように工夫している。	広いリビングはテーブルセットやソファ、予備の椅子等が適切に配置されている。随所に生花や貼り絵など利用者の作品や写真等が飾られて、明るく和やかで落ち着いた雰囲気となっており、対面式の台所からの調理の音や匂いを感じながら談笑を楽しむなど、利用者は好みの場所で自由にくつろいでいる。また大きな仏壇も配置されており、利用者は思い思いに静かに手を合わせて平穏な気持ちになる場にもなっている。日々整理整頓や清掃に心掛け、空調、採光、防臭にも細かに配慮して居心地良く過ごせる環境づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにイスを置き、そこで利用者が一人になったり、気の合う者同士で過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使いなれた家具などを持ってきていただくようお願いしており、自由に利用者が好みのもので部屋を飾られ、居心地の良い空間を作っている。	居室は明るく余裕があり、エアコン、ベッド、洗面台が設置されている。利用者は、使い慣れた整理ダンスやテレビ、マッサージチェア、時計、写真、花、小物等を持ち込んで、家庭同様に居心地の良い落ち着いた生活が営めるよう工夫されている。また、利用者の身体状態に応じて転倒防止マットを設置する等安全性にも細かに配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレ、浴室など手すりを付けており安全に移動できるように配慮されている。施設内は段差がなくバリアフリーになっており車イスの方もスムーズに移動できるようになっている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない